

福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

平成24年度 第1回総会議事録

平成24年7月9日

福島県水田農業産地づくり対策等推進会議
平成24年度第1回総会議事録

場 所：JA福島ビル4階 「特別会議室」
日 時：平成24年7月9日 午後1時30分～

議事の経過及び内容

午後1時30分、遊佐正広 事務局長（JA福島中央会 農業対策部長）の司会により、以下の順序に従って総会が進められた。

1 あいさつ

長島俊一 会長（JA福島中央会 常務理事）

2 議長選出

議長の選任方法を遊佐事務局長から議場に諮り、事務局一任の意見があり、事務局より長島俊一会長を提案、議場の承認を得て長島俊一会長が議長の就任あいさつをし、議事に入る。

3 議事録署名人及び書記の選任

議長から議事録署名人及び書記の選任について議場に諮り、議長一任の意見があり全員異議なく、議事録署名人に全農福島 米穀部長の岩沢清隆 様及び福島県担い手育成総合支援協議会会長の田中亮 様を、書記には事務局を選任した。

4 定足数確認

議長から本通常総会の定足数について報告を求められ、事務局長より会員団体数10団体9名のところ、本人出席者4名、代理出席2名、委任状提出3名となり、総会の定足数に達したことを報告。

5 報告事項

報告事項1 「平成23年度下期内部監査の結果について」

議長より「報告事項1」について報告を求められ、事務局長より内部監査の結果を報告した。

議長より議場に意見又は質問を求めたが質疑がなく、議事に移った。

6 議事

議案第1号「平成23年度事業報告および歳入歳出決算の承認について」

議長より、「議案第1号」について、事務局からの説明を求められた。

事務局長より、「議案第1号」については平成23年度の事業実施状況と各会計の区分毎に決算書、財産目録の内容を説明した。

事務局の説明に続き、議長より監査結果報告を求められ、監事（福島県町村会 事務局長 安田清敏様）より事業の執行については適正である旨の説明がされた。

議長より議場に意見又は質問を求めたところ「異議なし」との発声があり、全員賛成により「議案第1号」は可決承認された。

7 情報交換

今回、新たに福島県担い手育成総合支援協議会、福島県耕作放棄地対策協議会に参画いただいたことも踏まえて、情報交換を行った。

J A福島中央会農業対策部佐々木次長（以下佐々木次長）より24年産米生産数量目標調整の取組みについての状況が報告された。

議長より遊佐事務局長へ状況報告に対して補足等ないかと聞かれ、補足はないと遊佐事務局長より回答。

J A全農福島県本部米穀部岩沢部長より地域間調整のスケジュールについて、昨年の状況も踏まえて早くまとめるといっていたが。議長より生産者の声では何かあるか。との意見あり。農業者戸別所得補償制度の推進が7月上旬まで続く中、5月までに数量は出せない。再生協議会の推進は戸別に合わせてやっていたようだとの佐々木次長より回答。

議長より、これ以上の推進はどうかとの意見あり。加入申請は終了しているが、8月上旬まで変更がきくので8月までは郡山と白河の再生協議会が数量の確定はしないとの考えをもっている、との佐々木次長より回答。

議長よりこれ以上の推進はないのか、現実問題どうなのか、成果推進はあるかとの意見あり。去年は価格メリットで米価がさがるの見越して加入した人もいたが、加入件数がわからないので、去年よりどう伸びているかわからないと遊佐事務局長より回答。

議長より推進はどのように行っているのかとの意見あり。実際、地域の再生協議会が推進を行っている。震災前は地域センターと推進会議事務局と一緒に大口農家に個別で推進していたが、今年はそこまで出来ていないのが現状と遊佐事務局長より回答。

福島県水田畑作課半沢主任主査より地域再生協議会設立状況について報告された。

全42協議会のうち広域協議会は4協議会、檜枝岐村は協議会を持たず、葛尾村については事務局体制が整っていないため、出来ていないのが現状。状況見て地域の農林事務所を通じて見守っていききたい。意見等特になし。

福島県担い手育成総合支援協議会・福島県耕作放棄地対策協議会田中亮会長より両協議会の活動概要が報告された。

県内の優秀農家が県外に流出しないようにしているが、農地と被災者のマッチングがうまくいっていない。被災者の営農支援はうまく進んでいないのが現状。

議長より川俣町地域担い手育成総合支援協議会での「実証ほ場」の取組は全額交付なのかとの意見あり。10/10助成。返す必要なし。田中会長より回答。

福島地域センター菊地総括管理官より地域センターでの取組が報告された。

「人・農地プラン」の推進は24年、農林水産省として本省でとりくみたい。しかし、稲の作付けに関する情勢が厳しいため、プランづくりまで市町村が追いついていない。県の農林事務所と地域センターが聞き取り調査に入っている。59市町村を7月いっぱい歩いている。被災市町村に対して（双葉郡）情報は伝えてほしいと言っているなので、何らかの方法で状況を伝えていきたい。

「麦・大豆の作付けについて」農水省から作付け・調査の指示がきている。自給力向上に向けて取り組み強化のため、土地利用作物の作付けを増やしていきたい。25年予算に乗ってくるので調査をせず福島が不利にならないよう、調査を行っていききたいと考えている。

遊佐事務局長より避難先の営農について、県内の市町村を越える農地の貸し借りについてはその土地の地域の農業委員会が審査することになるのかとの意見あり。土地がある地域の市町村の農業委員会が元営農していた農地のある市町村の農業委員会にどのような管理がされていたか、適正だったかなど尋ねることになる。と田中会長より回答。

議長より他に議場に意見又は質問を求めたところなかったため意見交換は終了された。

議事終了後、議長よりすべての議案の審議を滞りなく終了したことへの礼を述べ、議長職を解かせていただくことを議場に告げ退席した。

8 閉会

午後 3 時 0 0 分、事務局長が本総会の閉会を告げた。

以上、この議事録が正確であることを証明するため、議長及び議事録署名人がここに署名し、押印する。

平成 2 4 年 7 月 9 日

議長

福島県水田農業産地づくり対策等推進会議 会長

議事録署名人

全国農業協同組合連合会福島県本部 米穀部長

議事録署名人

福島県担い手育成総合支援協議会 会長